

日本統治時代の台湾における民間造園技術者とその営業内容

A Study on Private Landscape Architectural Technicians and Their Business Contents in the Japanese Colonial Period, Taiwan

栗野 隆*

Takashi AWANO

Abstract: This paper aimed to clarify the private landscape architectural technicians in Taiwan, in the Japanese colonial period. This paper researched the number, the names and the business contents of them. The results of document analysis led to this paper new findings: (1) There were 66 landscape architectural technicians. The number of them is around 40% of the whole horticulturists in Taiwan. (2) The 66 landscape architectural technicians included 49 Japanese (it includes estimated people as Japanese.) and 17 Taiwanese. The number of Japanese exceeds 70% of the whole landscape architectural technicians. (3) There were 32 technicians who worked as gardeners. The 32 technicians included 31 Japanese (it includes estimated people as Japanese.) and Taiwanese was only 1 person. The result shows that it has a lot of possibilities that many Japanese gardens in Taiwan were constructed by such Japanese technicians. (4) There were 57 technicians who grew landscape architectural trees. The 57 technicians include 40 Japanese (it includes estimated people as Japanese.). The number of them is around 70% of the whole. (5) Some landscape architectural technicians in Japan exported landscape architectural trees to Taiwan. The export of such plants to Taiwan from Japan is one of important points to consider landscape architectural spaces in the period, Taiwan.

Keywords: Taiwan, Japanese colonial period, landscape architectural technician, modern landscape architecture

キーワード: 台湾, 日本統治時代, 造園技術者, 近代造園

1. はじめに

日清講和条約締結からポツダム宣言の受諾にもとづく第二次世界大戦終結に至るまでの50年間(1895~1945)は、台湾が日本の統治下にあった時代であった。この時代には、台湾総督府によって都市、交通、水利等に関する基礎的なインフラが整備された。日本統治時代台湾を扱った建築史、土木史の研究では、森山松之助、小野木孝治、八田與一、鳥居信平、長尾半平、尾辻国吉、野村一郎といった建築家や土木技術者の業績が確認できる^{1)~6)}。

造園分野については、殖産局技師を務めた芳賀敏五郎⁷⁾が「台湾の園芸と云へば其範囲甚だ大なるものがある、果樹園芸、蔬菜園芸、花卉園芸、並に築庭園芸、いつれとして現時本島在住人民の注目を引かぬものがない、殊に各地大小の都市盛に公園の設備、市街及び里道の並木植栽をなし、所謂都市美装に努力をなしつつあるを見る」⁸⁾と述べた。これは庭園・公園の整備、造園樹木等の栽培をおこなった造園技術者の日本統治時代における台湾での活躍をうかがわせる記述である。

上記のように、建築・土木の技術者の足跡は明らかにされつつあるいっぽう、造園技術者についてその知見は皆無に等しい。日本統治時代の台湾については、総督府による公園行政の実態が把握され⁹⁾、公園の設計は総督府や県庁の営繕課技師が担当したこと、総督府関係の官舎、宿舎、公共施設の庭園に関して総督府営繕関連役員が造営を担当した可能性があるとの推測が示された¹⁰⁾。原熙は台湾総督府の技師を歴任した人物であり¹¹⁾、台湾の国立公園計画には本多静六、田村剛が関わっていたことも明らかにされている¹²⁾。いっぽうで、造園の設計施工、造園樹木の養成栽培をどういった民間の技術者がおこなっていたのか、人物名や活動内容に関する全体像は不明である。

そこで本論文では、民間の造園技術者に着目し、日本統治時代の台湾でいかなる日本人や台湾漢人¹³⁾が造園業や造園樹木の養成栽培をおこなっていたのかを明らかにすることとした。研究目的は、庭園や公園の設計施工に携わった技術者、造園空間に植栽

された植物の養成に携わった技術者の人数、氏名、所在地といった基礎的情報を知るとともに、彼らの営業内容について詳しくすることである。さらに、日本から台湾へ造園材料としての植物をどのような技術者が輸出していたのかについても把握する。日本統治時代の台湾を対象とした理由は、日本の近代造園史研究において地域的に遺漏している点が否定できないからである。日本統治時代台湾の近代造園を詳細に把握してゆくためには、住宅、接客施設(料亭・旅館等)、庁舎等に営まれた庭園や公園等の空間的特徴と、造園の担い手(人物)を知ることが必要不可欠と考えられ、本論文はその担い手の一端を把握しようとするものである。

2. 研究の方法と造園技術者一覧表の作成

研究の方法は、昭和13年(1938)に発行された渡部泰輔編『全国著名園芸家総覧』(第14版)¹⁴⁾の記載内容の分析とした(以下、本文では『総覧』と記載する)。『総覧』は、昭和2年(1927)に初版が発行され¹²⁾、昭和6年(1931)から13年(1938)にかけて改版を重ねた。『総覧』は園芸分野全般(果樹・蔬菜・花卉・盆栽・切花・造園等)に関する園芸家の広告誌であり、1庁3府43県と総督府が置かれた台湾と朝鮮のほか、満州の造園技術者の情報も掲載され、日本近代の造園を考えるうえでの地理的範囲を網羅していること、掲載された園芸家の氏名、屋号・会社名、所在地、営業内容が記載されていることから、分析対象の資料として適当と考える。『総覧』に掲載された園芸家については、農園芸種苗、果樹、蔬菜、観賞植物、花卉草花、盆栽、活花・切花、造園を取り扱っていることを営業内容として記載していた者を園芸技術者として定義し、抽出することとした。造園技術者は、造園業を営んだ技術者と造園樹木の養成栽培をおこなった技術者と本論文では定義した。造園業を営んだ技術者は『総覧』の広告欄に「造園」「造園業」「庭園業」「庭園」「御庭師」「庭園師」「造園工務」「庭園設計施工」「庭園請負」と記載されたり、庭石や燈籠を取り扱ったりしていることが明記されている者と定義した。

*東京農業大学地域環境科学部

表一 『全国著名園芸家総覧』（第14版）に掲載された日本統治時代台湾の民間造園技術者一覧表（次頁につづく）

番号	氏名	屋号・会社名	所在地（『総覧』に記載された地名、所在地）	広告分量	造園	庭石	燈籠	造園樹木	観賞植物	花卉草花	『総覧』にみる営業内容の主たる記述
1	山路庄之助 (和歌山)	● 山松園	台北州 台北市老松町2丁目26	E	◎★	●	●	●	●		庭園請負・植木養成、和洋庭園設計施工一般請負、庭木・庭石・燈籠各種販売。
2	高谷秀高 (長崎)	● 高谷園芸商会・永楽園・植秀	台北州 台北市川端町20番地（第一農場） 台北市川端町79ノ1（第二農場）	A	◎★			●	●		御庭師、和洋庭園設計施工一般請負、内外国産公園用樹、熱帯観葉植物・植木・苗木養生各種販売、台湾総督府州庁・市役所・諸官衙公署・専売局・御用達。
3	山田清吉	● 山梅葡萄園	台北州 台北市川端町32番地	E				●	●		果樹苗木及観賞植物一般、優良品種果樹苗木各種・観賞植物・庭木・熱帯果樹苗木、葡萄栽培経営。
4	西里政吉 (熊本)	● 西里月花園	台北州 台北市川端町42番地	E	◎★			●			庭園請負・植木養成、和洋庭園設計施工一般請負、庭木・公園用樹・植木・盆栽・蘭科。
5	清永光太郎	● 清永千花園	台北州 台北市川端町43番地	E	●			●		●	庭園請負・植木養成、台湾特有産蘭科一般輸出卸、植木・盆栽・和洋草花・庭造其他一般園芸業。
6	竹内清之助 (和歌山)	● 竹内花園	台北州 台北市川端町51番地	E				●	●	●	草花種苗及観賞鉢物一般、観賞植物・植木・盆栽・蘭科各種・草花球根種苗及園芸品各種販売。
7	西本一平 (広島)	● 錦松園	台北州 台北市川端町53番地	E	◎★			●	●		庭園請負・植木養成、庭園師、和洋庭園設計施工一般請負、庭公園用樹・盆栽・観賞植物。
8	清永源太郎	● 清永春花園	台北州 台北市川端町71番地	E	◎★		●	●	●	●	庭園請負・植木養成、和洋庭園設計施工一般請負、庭木・盆栽・燈籠一式、観賞植物・和洋草花・台湾産蘭科一般、干歳蘭其他。
9	安田孝弘 (熊本)	● 安田翠香園	台北州 台北市川端町135（本園・第一農場） 台北市川端町59（第二農場） 台北市西門町市場稲荷神社境内（売店）	C				●		●	台湾産熱帯園芸植物類、樹子料植物、和洋蘭科・実生榕樹、盆栽各種・和洋草花・種子類・各種苗木。
10	橋本徳市	● 橋本農園	台北州 台北市川端町252番地（第一農場） 台北市川端町堤防下（第二農場）	E	◎★			●			庭園請負・植木養成、和洋庭園設計施工一般請負、植木各種養成。
11	小谷惣助 (和歌山)	● 泉松園	台北州 台北市川端町484番地	E	◎★	●	●	●			庭園請負・植木養成、和洋庭園設計施工一般請負、庭木・庭石・燈籠各種販売。
12	岩原潤吉	● 記載なし	台北州 台北市川端町	F	●						庭園業。
13	園田充直 (鹿児島)	● 記載なし	台北州 台北市川端町	F	●						庭園業。
14	吉村末松	● 記載なし	台北州 台北市川端町	F				●			植木販売。
15	石井某	▲ 石井農園	台北州 台北市川端町	F				●			植木販売。
16	清永某	▲ 清永千春園	台北州 台北市川端町	F	●						庭園業。
17	王養	○ 草花園	台北州 台北市大正町1丁目49番地	E				●		●	花卉及植木栽培、杜若生花材料・和洋草花・栽培・卸・小売。
18	織田清吉	● 植清造園部	台北州 台北市大正町3丁目32番地	C	◎★			●			純方式高尚御庭師、庭園請負・植木養成、和洋庭園設計施工請負、庭公園用樹養成販売、其他築庭二閑スルー一般ノ業務。
19	小山武次郎	● 記載なし	台北州 台北市龍口町3丁目	F	●						庭園業。
20	岡田清次郎	● 記載なし	台北州 台北市馬場町	F	●						庭園業。
21	阪上亀蔵	● 植亀造園部	台北州 台北市外七日生郡北投温泉	C	●			●	●		庭園請負・植木養成、台湾島産植物各種栽培及内地輸出、熱帯植物（観葉物・蘭科・観賞用）・庭園用樹・観賞植物養成販売。
22	若宮政市	● 記載なし	台北州 基隆市入船町3丁目6	F	●						造園業。
23	若林某	▲ 若林造園部	台北州 基隆市幸町2丁目	F	●			●			造園及植木。
24	下山吉吉	● 記載なし	台北州 基隆市田寮町19	F	●						造園業。
25	宮内熊袋婆	● 新竹種苗園	新竹州 新竹市黒金町609	E				●	●		山林種苗卸、造林用各種種苗・自園採取専門・園芸種苗・庭木・観賞植物・切花、生花材料一式栽培、諸官衙公署御用達。
26	陳逢茂	○ 逢茂農園	新竹州 新竹郡関西庄 海山郡板橋街（板橋分園）	A				●	●		外国種柑橘類・台湾柑橘類・特殊果樹、試作場・熱帯植物、林業種子苗・緑肥種子類、毎年売出可能樟樹竹は十万本の養成済みあり、庭園樹・観賞用樹・盆栽等を内地原産地より多量輸入。
27	羽ノ阿房	○ 新埔種苗園	新竹州 新竹郡新埔	F				●			植木種苗。
28	宇賀千太郎 (高知)	● 幸花園	台中州 台中市木下町1丁目1	E	◎★			●			造園師、造園及植木、和洋庭園設計施工請負、庭園用樹養成販売。
29	石鍋友七	● 記載なし	台中州 台中市後埔仔149	F	●			●			庭園及植木。
30	武智寿雄 (静岡)	● 敷島園	台中州 台中市敷島町4ノ13	E	●			●			庭園及植木、庭園師、庭木・種苗。
31	深澤桂三 (山梨)	● 深澤農園	台中州 台中市新富町7丁目20	E				●	●		植木及苗木、庭公園用樹、観賞植物類、諸苗木一切養成販売業。
32	林開蔵 (山口)	● 泰生農園	台中州 台中市早溪318ノ1	E				●			洋蘭栽培及植物種苗、種子・苗木・庭園用樹・洋蘭
33	瀧田政治郎	● 瀧田百花園	台中州 台中市大正町7ノ3（公会堂横）	E	●			●	●	●	造園及植木、庭公園設計施工一般、庭園樹・観賞樹・花卉球根・種苗・園芸一般之業務、諸官衙公署御用達。
34	本田辰喜	● 本田二葉園	台中州 台中市新高町269（商業学校隣）	E				●	●	●	植木盆栽花卉、庭公園用樹、盆栽、洋蘭、観賞植物、花卉園芸一般養成販売。
35	本田文男	●									
36	劉再亨	○ 台湾種苗園	台中州 員林郡永靖庄永靖660番地	A	◎★	●	●	●		●	植木・苗木・種苗・花卉・造園工務、観賞用諸花苗、庭園教材用苗、高級コロン類、南洋熱帯果樹苗、諸果樹苗類養成販売卸業、造園部設置、和洋庭園設計施工、庭公園用樹、庭石燈籠、諸官衙・農会・試験場・学校御用達。
37	蔡水木	○ 永靖種苗園	台中州 員林郡永靖庄永靖455	C				●	●		台湾特産柑橘・観賞樹養成、生産品目、熱帯果樹苗木、教材用植物類・庭園用樹一式、観賞植物類、其他委託栽培、諸官衙各農会各学校御用達。
38	朱添寿	○ 員林種苗社	台中州 員林郡永靖庄永靖南門	A				●			台湾特産柑橘・観賞樹養成、台湾特産の植木六品種特別大提供、内地向最適品：クローン・檳榔樹上苗木・紅竹・虎ノ尾・ゴム樹・陰間、各州内農会・学校・会社御用達
39	李玉	○ 昭和農園	台中州 北斗郡田尾庄打藤215	A				●	●		園主の責任栽培品：熱帯産観賞植物、熱帯産果樹苗木・ゴム樹（差シ木物）・檳榔樹、棕櫚竹・庭園用樹各種・台湾産蘭科植物自園養成輸移出卸販売。

表一 『全国著名園芸家総覧』（第14版）に掲載された日本統治時代台湾の民間造園技術者一覧表（前頁からのつづき）

番号	氏名	屋号・会社名	所在地（『総覧』に記載された地名、所在地）		広告分量	造園	庭石	燈籠	造園樹木	観賞植物	花卉草花	『総覧』にみる営業内容の主たる記述
40	巫盛	○ 茂盛種苗園	台中州	北斗郡田尾庄打藤	A				●	●	●	内地向最遠島産植物一般、経営課目：熱帯植物・観賞植物・庭園用樹・山林用樹・道路並木・内外果苗・内外花苗・志支那素心・和洋蘭類・一般園芸・台湾特産柑橘・観賞樹養成、諸官公署・試験場・農会団体・諸学校御用達。
41	巫文瑞	○										
42	程老庚	○ 中央種苗園	台中州	北斗郡田尾庄打藤（本園） 岡山郡岡山（分園）	A				●		●	熱帯果樹・暖帯果樹・寒帯果樹・花卉及庭木、台湾特産柑橘・観賞樹養成、諸官公署・試験場・農会団体・諸学校御用達。
43	程老坤	○										
44	陳夢花	○ 記載なし	台中州	北斗郡田尾庄打藤	F				●			椰子科一般。
45	邱劍廉	○ 邱植物園	台中州	北斗郡田尾庄鎮平	D				●			椰子科専門。台湾産椰子科植物専門栽培部。
46	國本正雄	● 記載なし	台南州	台南市大宮町4丁目	F	●						造園業。
47	水田三吾 （広島）	● 広陵園	台南州	台南市寿町2丁目1番地	A	●	●		●			造園師、造園・植木・庭石、方式を誤らざる造園の施工、庭園設計施工植木盆栽養成
48	氏川禎治 （広島）	● 観花園	台南州	台南市三分子119	B	◎★			●	●	●	台南造園界の權威、御庭師、庭園設計施工植木盆栽花卉、和洋庭園一般設計施工請負、営業課目：造園一般業・庭園樹一式・観賞植物・盆栽及花卉・植物養成販売。
49	林縫之助 （新潟）	● ハヤシ農具種苗店	台南州	台南市清水町3丁目7番地	A				●	●		特産種子採取植物一般農具、営業課目：熱帯観賞植物一般・鳥産採取品種子類、庭園用樹木各種・内外産農園種苗・農園用機械器具・農園用薬品肥料、輸出入販売業。
50	荻原善次郎	● 荻原宝花園	台南州	台南市宝町2丁目2（本園） 西市場構内植木盆栽部（第一支店） 西市場構内切花部（第二支店）	B				●	●	●	花卉球根栽培種苗植木類一般、生花切花直入卸、営業課目：和洋高級品種の花弁球根栽培・生花用切花一式・観賞用植物・庭木・盆栽・苗木・其他園芸種苗自園豊富生産。
51	荻原栄一	●										
52	大橋辰雄	● 記載なし	台南州	台南市月見堂横	F	●			●			庭園師、植木。
53	某	▲ 東京興農園 台湾支店	台南州	台南市南門町1ノ89	C	●			●	●	●	種苗球根苗木農園器具薬品、営業課目：洋蘭各種・種子・球根・苗木・観賞植物・盆栽・農園用器具・肥料・農薬・農園用書・造園設計施工・庭園用樹各種・慶弔用花卉裝飾生産直輸入販売業。
54	荒木虎雄 （熊本）	● 記載なし	台南州	台南市明治町2丁目89	F	●						造園業。
55	黄茂盛	○ 蘭記種苗園	台南州	嘉義市榮町1丁目41					●		●	和洋蘭科一般、植木盆栽花卉。
56	浅野常三郎	● 記載なし	台南州	嘉義市榮町5丁目18	F	●			●			植木庭園。
57	正司正男 （石川）	● 正司芳香園	台南州	嘉義市山下町32番地	C				●		●	和洋蘭科一般植木花卉種苗、営業課目：洋和蘭科一般・観賞花卉生花・草花球根種苗・庭木・植込材料・園芸品一般養成。
58	西井貞逸	● 西井碧翠園	台南州	嘉義市山子頂358	E				●			南洋産蘭東洋産蘭植木盆栽、東洋蘭・南洋蘭内地向輸出卸売、庭木・盆栽培養。
59	野々村國吉	● 野村農園	台南州	嘉義市埤子頭222	F				●			椰子科植物。
60	久保田某	▲ 久保田農園	高雄州	高雄市三塊厝	F				●			植木一般栽培。
61	林振隆	○ 芳蘭園	高雄州	高雄市三塊厝駅前	E				●	●		和洋蘭科一般植物苗木、台湾特製蘭科各種・観賞植物・古松・庭園樹・柑橘苗・一般園芸種苗・養成販売業。
62	熊本直次 （愛媛）	● 南台種苗農機商会	高雄州	高雄市塩埕町6丁目2 高雄市前金（州庁裏）（第一農場）	C				●	●		課目：農林産種苗・農用器具機械・農業薬品肥料、直営農場栽培：サンスベリヤ・榕招竹・観音竹・椰子科植物・貸鉢用等豊富。
63	眞鍋音助	● 眞鍋農園	高雄州	高雄市前金町410番地	B	◎★			●	●	●	造園業植木一般栽培、造園部：和洋庭園一般設計施工請負業、園芸部：庭園用樹・観賞植物・諸盆栽・珍草花卉類一般自営大量之養成販売業。
64	方常	○ 日東花園	高雄州	屏東市東林子内12 台南市宝町2丁目16（本園）	E						●	胡蝶蘭及一般植物業、洋蘭・胡蝶蘭・各種官蘭・観賞花卉・庭木・花盆・果苗一切養成販売。
65	葉相花	○ 宜春花園	高雄州	屏東市屏東栄町595	E				●		●	胡蝶蘭及び一般植物業、洋蘭・胡蝶蘭・各種官蘭・観賞花卉・庭木・花盆・果苗一切養成販売。
66	清水半平 （群馬）	● 清水種苗園	花蓮港庁	吉野村 花蓮港街黒金通（支店）	C	●			●			熱帯植物養成、椰子科植物・熱帯植物・造園。

注1) 「氏名」欄の氏名右側の●は、日本人の園主等を示す。▲は、屋号・会社名の名称から、日本人であったと推定される園主等を示す。○は、台湾漢人の園主等を示す。日本人のうち、氏名の下の括弧内表記は当該人物の出身地を示す。
 注2) 「広告分量」欄のアルファベット表記は、右のように広告の大きさを示す。A：1頁、B：1/2頁、C：1/4頁、D：1/8頁、E：1/16頁、F：1乃至2行の記載。
 注3) 「造園」欄は広告に、「造園」「造園業」「庭園」「御庭師」「庭園師」「造園工務」「庭園公園設計施工・庭園請負」と記載されたものを示す。和風造園を掲げていた者は★印を、洋風造園を掲げていた者は▲印を、記載がなかった者は●印としている。
 注4) 「庭石」「燈籠」欄の●印は、「庭石」「燈籠」の販売等を取り扱っていたことを示す。
 注5) 「造園樹木」欄の●印は、「庭木」「植木」「庭園用樹」「庭園用樹」「公園用樹」「植込材料」「道路並木」「榕樹」「椰子」「椰子科植物」の養成栽培を扱っていたことを示す。

造園樹木の養成栽培をおこなった技術者は造園樹木（『総覧』に「庭木」「植木」「庭公園用樹」「庭園用樹」「公園用樹」「植込材料」「道路並木」「榕樹」「椰子」「椰子科植物」と記載されているもの）を養成していることが広告内に明記されていた者と定義した。したがって、園芸技術者のなかに造園技術者が含まれ、造園技術者のなかに造園業を営んでいた技術者と造園樹木の養成栽培をおこなっていた技術者が含まれる。なお広告分量についてはその掲載料金によって1頁、1/2頁、1/4頁、1/8頁、1/16頁、1乃至2行の記載のものがあり、情報量にばらつきがある。屋号・会社名のみ記載で農園の園主等、代表者氏名が未記載のものもあるが、その場合も全体像把握の観点から1技術者として抽出することとした¹⁶⁾。上記の定義を条件として造園技術者と抽出した者のなかには、果樹、活花切花、盆栽等も養成している者が確認できたが、室内だけではなく造園空間や建物周辺でも利用された可能性があ

る観賞植物（『総覧』に記載されていた「観賞植物」「観葉植物」「観賞樹木」「観賞樹」を示す）、花卉草花（活花や切花は除く）（『総覧』に記載されていた「花卉」「草花」「花苗」「球根」「蘭」を示す）に関する養成の有無も把握し、造園技術者一覧表を作成した（表一）。

以下本論文では、表一にもとづき論述を進めることとしたい。

3. 『総覧』にみる台湾の造園技術者

(1) 園芸技術者と造園技術者の人数や造園技術者の所在地

『総覧』の広告内容（図一）を精査した結果、台湾に在住していた園芸技術者（果樹、花卉、活花切花、盆栽、造園等の技術者）は175名であった（趣味園芸家、華道家、農具のみの販売者を除いた人数を示す）¹⁷⁾。初版では台湾の部に掲載された技術者は5名であり、かなり人数が増加したことがわかる。

まず、園芸技術者全体における日本人の割合を議論する。上記の175名のうち、日本人は78名、台湾漢人は62名であった。氏名が記載されていなかった35名のうち、屋号・会社名が日本人の姓を表すものや、日本の会社が支店を台湾に置いたもので日本人技術者と推定できたものが15名であった。したがって、推定日本人の人数を含めると93名となり、『総覧』に掲載された日本統治時代台湾の園芸技術者の半数以上が日本人であったと指摘できる¹⁸⁾。上記の人数の割合をふまえ、日本統治時代台湾における造園技術者（造園および造園樹木の養成をおこなっていた者）の人数を数えたところ、園芸技術者全体の4割弱の66名が存在した。この66名の内訳は、日本人44名、推定日本人5名、台湾漢人17名であった。ここで留意することとして、『総覧』の発行所は大阪にあるので、台湾在住の園芸技術者が広告を掲載することは日本（内地）在住の園芸技術者と地理的・通信的観点から比べると難しい側面があると考えられる。そして台湾在住の園芸技術者について、日本人、台湾漢人それぞれが広告を掲載することを言語の観点から比べると、台湾の公用語は日本統治時代では日本語であったものの、台湾漢人にとっては難しい側面があると考えられる。以上から『総覧』に掲載されていない台湾在住の日本人造園技術者、台湾漢人造園技術者の存在は考慮しなければならないが、『総覧』に掲載された造園技術者のみで議論すると、日本人と推定日本人とをあわせると49名に達し、造園技術者全体の7割以上を占める。したがって日本統治時代における造園事業には、民間日本人技術者が大きく関係したことが判明するのである。

『総覧』には、日本人技術者の出身地が明記されている場合がある。さらに、総督府や役所等の役人、および議会議員等でもあった技術者は、台湾総督府職員録¹⁹⁾に氏名と職名、出身地が記載されている。これらをもとにして日本人造園技術者の出身地が判明したものは19名であった。その内訳は、群馬県1名、新潟県1名、石川県1名、山梨県1名、静岡県1名、和歌山県3名、広島県3名、山口県1名、愛媛県1名、高知県1名、長崎県1名、熊本県3名、鹿児島県1名である。19名のうち、近畿、四国、中国、九州の出身者が14名と、西日本出身者が多いことがわかる。

台湾総督府職員録¹⁹⁾にみえる台湾総督府や議会議員等の職に就いていた造園技術者は、園田充直、安田孝弘、林縫之助、荒木虎雄、正司正男、熊本直次、清水半平の7名であった（表-2）。総督府関係では税関管理部、殖産局、専売局、州庁関係では台南

表-2 台湾総督府職員録¹⁵⁾に氏名がみえる造園技術者

氏名	「台湾総督府職員録」にみる役職	年代
園田充直	税関監視部 監吏	明治43年(1919)
	殖産局林野調査課 雇	明治44年~大正3年(1911-1914)
	殖産局林野調査課 属	大正4年(1915)
	殖産局林野整理課 属	大正5年~大正7年(1916-1918)
	専売局造林課 技手	大正9年~大正12年(1920-1923)
	殖産局山林課 技手	大正14年~昭和5年(1925-1930)
安田孝弘	台南郵便局電信課 通信事務員	昭和3年~昭和7年(1928-1932)
林縫之助	台南州台南市会 市議員	昭和15年~17年(1940-1942)
	台南州台南市会 市議員	昭和19年(1944)
荒木虎雄	台南州台南市会 市議員	昭和15年~昭和16年(1940-1941)
正司正男	台南州内務部勸業課 産業技手	大正13年~昭和9年(1924-1934)
	専売局嘉義支局 雇	昭和16年(1941)
	専売局嘉義支局 技手	昭和17年(1942)
熊本直次	専売局嘉義支局 雇	昭和19年(1944)
	台南州内務部勸業課 技手	大正10年~大正12年(1921-1923)
	高雄州内務部勸業課 技手	大正13年(1924)
	高雄州内務部勸業課 属	大正14年(1925)
清水半平	高雄州内務部勸業課 技手	大正15年~昭和4年(1926-1929)
	吉野郵便局 局長	大正2年~昭和19年(1913~1944)
	花蓮港庁庁協議会 庁協議会議員	昭和13年~昭和14年(1938-1939)
	花蓮郡役所吉野庄 庄長	昭和14年~昭和16年(1939-1941)
	花蓮港庁庁協議会 庁協議会議員	昭和19年(1944)

州、高雄州、議会関係では台南市会、花蓮港庁庁協議会で議員を務めたものがいた。特に清水は昭和14年~16年(1939-1941)に花蓮港庁吉野村の庄長を務めた人物でもある。総督府や議会議員等の職に就いていた造園技術者が存在していたことは、造園技術者の台湾における活動を考えるひとつの材料であり、彼らの上記職への登用形態や、造園に関する業務と公務にあたるうえでの仕事の重複関係や内容の検討が今後の課題となろう。

さらに、技術者の台湾における所在地について検討する。『総覧』が発行された昭和13年(1938)当時の台湾の行政区分は五州三庁であるが、175名の園芸技術者の内訳は、台北州61名、新竹州9名、台中州44名、台南州36名、高雄州17名、花蓮港庁8名であった(台東庁、澎湖庁は0名)。このうち造園技術者については、台北州24名、新竹州3名、台中州18名、台南州14名、高雄州6名、花蓮港庁1名であった。したがって、花蓮港庁を除くその他の州では、園芸技術者全体のうち、3割乃至4割が造園

高雄市代表的權威の眞鍋農園

眞鍋農園

園主 眞鍋 豊

電話 二九〇〇

地址 高雄市中區

図-1 『全国著名園芸家総覧』¹⁴⁾の広告の1例(新竹州・台南州・高雄州)

師庭御

和洋庭公園設計施工一般請負

植秀

高谷園藝商會

第二台北支店

電話 二九〇〇

地址 高雄市中區

図-2 高谷園藝商會の広告内容
出典：『全国著名園芸家総覧』¹⁴⁾

臺灣種苗園

園主 劉 再 亭

電話 二九〇〇

地址 高雄市中區

庭園設計及施工

庭園用樹、庭石燈籠

図-3 台湾種苗園の広告内容
出典：『全国著名園芸家総覧』¹⁴⁾

技術者であったことがわかる。造園技術者が最も多く所在した州庁が台北州の24名であり、台北市には24名中20名が存在した。

特に興味深いのは、台北市内の造園技術者20名のうち、割合的にも多い15名の所在地が台北市川端町であったことである。川端町はその町名が示すように、台北市南方の新店溪という河川沿岸に立地した地域であった。「台北博覧会記念台北市街図」(1935)²⁰⁾には川端町に山梅ブドウ園、ヤマト種苗園、千花園、橋本農園、台北種苗園、月花園の記載がみえ、山梅ブドウ園は山田清吉(山梅葡萄園)、千花園は清永光太郎(清永千花園)、橋本農園は橋本徳市(橋本農園)、月花園は西里政吉(西里月花園)の所在地であった蓋然性が高い。「台湾農林新聞」(昭和11年4月29日付)²¹⁾には、「台北の緑濃やかな植木屋さん町で、水の郷、ボート、水泳と市民に親しまれた川端町」との記載があり、『総覧』に確認できた台北市内の造園技術者の4分の3が川端町に所在していたことの証左が得られた。

(2) 造園業を営んだ技術者たち

『総覧』を確認したところ、造園業を営んだ技術者は32名が確認できた。山路庄之助、宇賀千太郎、氏川貞治、眞鍋音助など32名のうちの12名は、和風造園のみならず洋風造園も取り扱えることを広告に掲げていた。

特に注目される事実は、32名の技術者のうち、推定を含む31名が日本人であり(日本人28名、推定日本人3名)、台湾漢人は1名のみであったことである。台湾には、台湾総督官邸(現・台北賓館)²²⁾をはじめ、宜蘭郡守官邸(現・宜蘭設治記念館)、軍司令官官邸(現・孫立人將軍官邸)のほか、台北、基隆、台中、台南等に所在した台湾漢人の住宅にも和風庭園が造営されたことが明らかになっているが¹⁰⁾、『総覧』の分析結果を考慮すると、日本統治時代台湾の和風庭園は日本人造園技術者が作庭に関与した蓋然性が高いことが指摘できる。

日本統治時代の造園事業には、日本人と台湾漢人の両方が関わっていたと考えられるため、以下、『総覧』から営業内容が他の技術者よりも詳しく読み取れた日本人と台湾漢人の造園技術者の具体例についてみてゆく。日本人技術者は高谷秀高が挙げられる。高谷は江戸期以来の九州の代表的植木生産地であった長崎県北高来郡古賀村(現・長崎市東長崎地区)出身であった。会社名・屋号は高谷園芸商会、永楽園、植秀と3つが記載されている²³⁾。広告欄には「創業二十有余年」とあり、大正中期には創業したと考

えられる。高谷園芸商会は長崎の本園のほか、大連(第一支店・第三支店)、台北(第二支店)、奉天(第四支店)に各支店を置いた。第二支店園主・高谷秀高は台北市川端町に農場を2か所営んでいた。広告内には「御庭師」「和洋庭公園設計施工一般請負」の文字が大きく記載され、台湾総督府および州庁、市役所、諸官衙公署、専売局、学校の御用達とあり、公共の造園を手掛けていたことが確実な造園技術者であったことがわかる(図-2)。

次に、『総覧』では唯一の台湾漢人として造園業を営んでいたのが劉再亨である。台湾種苗園という屋号・会社名であり、台中州員林郡永靖庄(現・彰化県永靖郷)を拠点としていた。劉は6か所の農園と数か所に直営栽培地を有するほどの大規模経営をおこなっていた。養成栽培植物には、「観賞用諸花苗 庭園教材用苗 高級コロトン類 南洋熱帯果樹苗 諸果樹苗類」が掲げられている。広告に記された「庭園教材用苗」が何を示すのかが明確にわからないが、「諸官庁・農会・試験場・学校御用達」と記載されていることから、学校の造園・園芸(教材園等)に関係するものと考えておきたい。劉は台湾種苗園に造園部を設置しており、和風および洋風の庭園、公園の設計施工、造園樹木(庭公園用樹)、庭石、燈籠も扱っていた。『総覧』には、「弊社施工庭園の一部」として雪見形と六角形の石燈籠、親柱に擬宝珠を施した反橋、四阿を配し、椰子科植物を植栽した和風庭園の写真がみえる(図-3)。

(3) 造園樹木の養成栽培をおこなった技術者たち

『総覧』を確認したところ、造園樹木の養成栽培をおこなっていた技術者は57名が確認できた。このうち、造園業も営んでいた技術者がおおよそ4割の24名であった。57名の内訳は、日本人36名、推定日本人4名、台湾漢人17名であり、日本人および推定日本人の合計人数は40名となり造園樹木の養成栽培をおこなっていた技術者の7割にのぼる。上記技術者たちは、造園樹木以外に、室内だけではなく造園空間にも利用されたと考えられる観賞植物や花卉草花を養成栽培していたのは32名であった。

特に注目された点は、台湾産の植物を日本へ輸出、もしくは日本産の植物を台湾に輸入した技術者が存在した点であり、台湾の植物が日本近代の造園空間で利用され、日本の植物が統治時代台湾の造園空間に利用されたことがうかがえたことである。特に陳逢茂が営む逢茂農園、巫盛と巫文瑞の茂盛種苗園には外交部が設置され、観賞植物等の輸出入をおこなっていた。日本から植物を輸入した造園技術者については次章で述べることとし、以下では

表-3 『全国著名園芸家総覧』(第14版)にみえる日本統治時代の台湾に植物を輸出していた造園技術者

氏名	屋号・会社名	所在地	造園樹木	観賞植物	花卉草花	広告の内容(台湾に輸出をおこなっていたことが読み取れる箇所)
某	日満園芸商会	大阪府西區京町堀通り			●	一般高級花卉切花航空輸送、「朝鮮、満州、台湾」空輸界の創始、生きた花なら生かして使ふ、朝は内地の温室内で夕は満州で皆様に御目見得いたします
山本小右衛門	山本小樹園	大阪府池田町吉田	●	●		朝鮮、満州、台湾向植木移出卸、営業品目 庭公園用樹一式・垣根用苗木各種・観賞植物・切花用苗・盆栽類・諸苗木
竹呂某	ミカド種苗	兵庫県川辺郡山本	●	●	●	台湾向植物輸出は内地にて一番信用確実なる仕入先、営業品 庭園用樹・観賞植物・内外花卉・和洋草花・球根類・果実苗
小倉徳松	花月園	広島市己斐町		●		朝鮮、満州、台湾向植物、弊園の特に専門とせる黒松、真柏・盆栽 其他観賞植物一般・万年青・蘭・活花用材・切花輸出卸売業(豊富養成)
櫻井幹夫	三島園	広島市己斐町	●	●		植木盆栽の御仕入は己斐の本場で特に朝鮮、満州、台湾向植木 輸出卸専門業、営業課目 植木盆栽類・観賞樹一般・養成卸専門・石燈籠各種・植木盆栽鉢・産地直入元卸
谷三代吉	谷緑樹園	広島市己斐町	●			朝鮮・満州・台湾輸出卸専門、営業課目：高級諸盆栽・植木類一般養成販売、植木鉢各種窯元直入卸
中村信吾 中村正一	中村鯉公園	広島市己斐町(本園・分園) 広島市己斐町字大影(生花部)	●			営業品目：満州、朝鮮、台湾植木輸出業界の権威。松盆栽、高級諸盆栽、植木及び苗木、各種植木鉢類、生花切花一式。
高谷仁市	高谷園芸商会	長崎県北高来郡古賀村	●	●		長崎県代表的産地養成輸出卸専門、課目：蕙蘭・其他各蘭科一般・観賞植物・庭公園用樹・諸盆栽・其他植物一般養成。

注1) 「造園樹木」欄の●印は、「植木」「植木類」「庭公園用樹」「垣根用苗木」の輸出を扱っていたことを示す。

注2) 「観賞植物」欄の●印は、「観賞植物」「観賞樹」の輸出を扱っていたことを示す。

注3) 「花卉草花」欄の●印は、「花卉」「内外花卉」「和洋草花」の輸出を扱っていたことを示す。

注4) 「盆栽」欄の●印は、「盆栽類」「高級諸盆栽」「松盆栽」の輸出を扱っていたことを示す。

注5) 高谷園芸商会は台湾に植物を輸出していたことが長崎県の部の広告には明記されていなかったが、台北に支店を設けており、台湾の部の広告欄には日本の植物を取り扱っていることが記載されていたため、本表に含めた。

台湾産の植物を日本へ輸出した技術者について述べる。

『総覧』で植物の輸出を広告に明記した技術者には、清永光太郎、阪上亀蔵、陳逢茂、朱添寿、李玉、巫盛と巫文瑞、羅老庚と羅老尊、林縫之助、西井貞逸が確認できた。上記のうち、清永、李、羅（老庚・老尊）、林、西井については、輸出先が日本かは明記されていなかった。ただし『総覧』は日本人向けの広告誌であり、輸出先には日本が含まれているのが当然であると考えられる。日本に輸出された植物にはどのようなものがあったのかは熱帯観賞植物や蘭科植物などが確認でき、とりわけ員林種苗社の朱添寿は「台湾特産の植木六品種特別大提供」と銘打って「内地向最適品」としてクロトン（80余種：1万本）、檳榔樹上苗木（5千本）、紅竹（差シ木物：1万本）、虎ノ尾（白縞及び黄フクリン：5千芽）、ゴム樹（差シ木上物：1千本）、陰蘭（大中小葉：500芽）といった具体的な植物名と輸出量の分量を記している点が興味深い。

4. 日本産の植物の台湾への輸出入に関わった造園技術者たち

日本の植物の台湾への輸出入に関わっていた造園技術者には、台湾在住の者と日本在住の者が『総覧』から確認できた。

まず、輸入関係者については、高谷秀高と陳逢茂が判明する。高谷は「内外国産 公園用樹 熱帯観賞植物 植木 苗木 養生 各種販売」との記載が確認できる。「内外国産」の「内」とは日本を意味すると考えられ、『総覧』「長崎県の部」の高谷園芸商会の広告には「長崎県代表的産地養成輸出卸専門」とあり、長崎古賀村の本園で養成栽培した植物を台湾に輸送したと考えられる。他方、陳は『総覧』の特別広告面にて「台湾逢茂農園の躍進的發展に伴ふ海外輸出入」と題目を掲げ、「庭園樹、観賞用樹、盆栽等を内地原産地より多量輸入し、在留人を喜ばしてゐる」とある。

日本から台湾へ造園樹木、観賞植物、花卉草花といった造園空間に植栽されたと考えられる植物を台湾に輸出していた造園技術者は9名が確認できた（表-3）²⁴⁾。大阪市内に拠点をおいた日満園芸商会を除き、大阪府池田町、兵庫県川辺郡、広島市己斐町、長崎県古賀村という西日本有数の植木生産地に拠点を置く技術者である。広告では、海外輸出は台湾に限定していたのではなく、朝鮮および満州へも輸出をおこなっていた。

なお、台湾をはじめ、朝鮮、満州への植物の発送を専門で取り扱っていた平野回漕運送店（代表者・平野竹蔵）という業者も存在していた。輸送手段としては平野回漕運送店は日本郵船、大阪商船、近海郵船の積荷を取り扱っていたことから海上輸送によるものと考えられ、日満園芸協会は海外空輸部を社内に設けて航空輸送をしていたようである。

5. おわりに

本論文では、『全国著名園芸家総覧』（第14版）¹⁴⁾の分析により、日本統治時代の台湾の民間造園技術者について検討してきた。本論文で明らかになった要点を以下の6点にまとめるとともに、今後の課題を明記し、本論文の結言とする。

- イ) 『総覧』にみる日本統治時代における台湾の民間造園技術者は、園芸技術者全体の4割弱にあたる66名であった。
- ロ) 『総覧』の66名の造園技術者のうち、推定を含む日本人は49名、台湾漢人は17名で、日本人は造園技術者全体の7割を超える割合であった。日本統治時代台湾の造園事業に日本人造園技術者が相応の割合で関与したことは間違いない。
- ハ) 『総覧』では造園業を営んだ造園技術者は32名確認できた。そのうち推定を含む日本人は31名、台湾漢人は1名であった。したがって日本統治時代における台湾の和風庭園については、日本人造園技術者が作庭に関係した蓋然性が高い。
- ニ) 『総覧』からは造園樹木の養成栽培をおこなっていた技術者は57名が確認できた。このうち推定を含む日本人技術者は

40名であり、全体の7割に達する。

- ホ) 『総覧』からは台北市川端町に所在した造園技術者が多数いることが確認できた。この町は日本統治時代には「緑濃やかな植木屋さん町」といわれた地域であった。
- ヘ) 『総覧』からは台湾および日本とでは相互に造園樹木、観賞植物、花卉草花の輸出入がおこなわれていたことが判明した。日本からの植物の台湾への輸入は、日本統治時代台湾の造園空間の特徴を検討する足掛かりとなると考えられる。

本論文の知見を深めるために、イ) 日本人造園技術者の台湾渡航の経緯、ロ) 日本人技術者の台湾における具体的な仕事内容、ハ) 造園技術者が多数集まった台北市川端町の詳細、ニ) 日本人技術者に西日本出身者が多い理由、の解明を今後の課題とする。謝辞：本研究はJSPS科研費JP18K05712の助成を受けたものです。

補注及び引用文献

- 1) 蔡耀保 (2015)：日治時期台湾總督府土木局官署建築人材の来源及其建樹 以前述辻国吉為例：台湾史研究 22 (3) 中央研究院台湾史研究所, 51-96
- 2) 古田智久 (2016)：建築家森山松之助与其作品：台湾文学館通訊 (53), 40-44
- 3) 甘俊二 (1980)：台湾の農業水利と八田与一：農業土木学会誌 48 (6), 436-437
- 4) 平野久美子 (2008)：南台湾が語り継ぐ農業土木技師 鳥居信平：農業農村工学会誌 76 (4), 369-371
- 5) 黄俊銘 (1991)：長尾半平と明治期の台湾官署建築：土木史研究 (11), 281-288
- 6) Wang Shengying・星和彦 (2016)：日本統治時代の台湾建築と小野木孝治：前橋工科大学研究紀要 (19), 1-4
- 7) 芳賀敏五郎は、明治末期から大正期における台湾總督府職員録に、殖産局農商課・林務課・園芸試験場等の技師であったことが中央研究院台湾史研究所ホームページ「台湾總督府職員録系統」(<http://who.ith.sinica.edu.tw/mpView.action>)から確認できる。
- 8) 芳賀敏五郎 (1915)：台湾の園芸事情：明治園芸史所収：日本園芸研究会, 599-629 (本論文では有明書房による1975年の復刻版を用いた)
- 9) 柳五郎 (1992)：日本統治下の朝鮮・台湾における公園問題：造園雑誌 56 (5), 37-42
- 10) 楊舒琪 (2005)：日本植民地時代における台湾の庭園造営とその背景について：ランドスケープ研究 68 (5), 431-434
- 11) 井手久登 (1996)：原照 職域の拡大と専門家養成の先駆者：ランドスケープ研究 59 (4), 239-242
- 12) 劉東啓・油井正昭 (1999)：第二次世界大戦以前における台湾国立公園の成立に関する研究：ランドスケープ研究 63 (5), 375-378
- 13) 日本統治時代 (1895~1945) における台湾の漢民族は日本帝国憲法下における「日本人」であるが、本論文では「台湾漢人」として扱うこととした。
- 14) 渡部泰輔編 (1938)：全国著名園芸家総覧 (第14版)：大阪興信社営業所 (本文版はノンプルがない。台湾の造園技術者に関する広告は38ページ確認できた)
- 15) 渡部泰輔編 (1927)：全国著名園芸家総覧：大阪興信社営業所
- 16) 『総覧』に屋号は記載されているが、園主等の技術者名が未記載のものは、石井農園、清永千春園、若林造園部、東京興農園台湾支店、久保田農園の5件であった。東京興農園台湾支店を除く4件の屋号は、日本人の姓を表していると推定し、「姓」+「某」として技術者名を記録した。東京興農園 (渡瀬寅次郎が創設した日本の企業)の台湾支店は日本人技術者が1名は在籍すると推定し、「某」として技術者名を記録した。
- 17) 175名のうち、35名は屋号・会社名が記されているが園主等の代表者名の記載がなかった。ただし本論文の研究方法で述べた方針にもとづき、全体像把握の観点から1技術者として数えた。
- 18) 台湾總督府が台湾人に漢式の姓名を日本式に改めることを可能とした「改姓許可制度」の公布は昭和15年(1940)2月である。『総覧』が発行された昭和13年(1938)は、日本式の姓名を名乗る者は日本人に限定されていたため、日本式の姓名を持つものは台湾漢人ではない。周婉婷 (2013)：増補版返説台湾の歴史：平凡社, 181-194 (濱島敦俊監訳、石川豪・中西美貴・中村平訳)に詳しい。
- 19) 中央研究院台湾史研究所：台湾總督府職員録系統ホームページ：<http://who.ith.sinica.edu.tw/mpView.action> 2019年7月17日参照
- 20) 小松豊 (1935)：台湾博覧会記念台北市街図：東京興信交通社
- 21) 著者不明 (1936)：足立みづはら川端園芸業者よ何處へ行く：台湾農林新聞第5号 (昭和11年4月29日付)：台湾農林新聞社
- 22) 林海平・鈴木誠 (2007)：台北賓館(旧總督官邸)の日本式庭園復元工事について：造園技術報告集 (4), 76-81
- 23) 『総覧』の長崎県の部には高谷園芸商会のみが確認でき、永楽園、植秀の屋号は見当たらない(長崎の本園主・高谷仁市)。
- 24) 『総覧』に屋号は記載されているが、園主等の技術者名が記載されていないものは、日満園芸商会があり、姓のみ記載されていたものミカド種苗であった。したがって、日満園芸商会は「某」と、ミカド種苗は「竹呂某」として記録した。

(2019.9.28受付, 2020.3.30受理)